

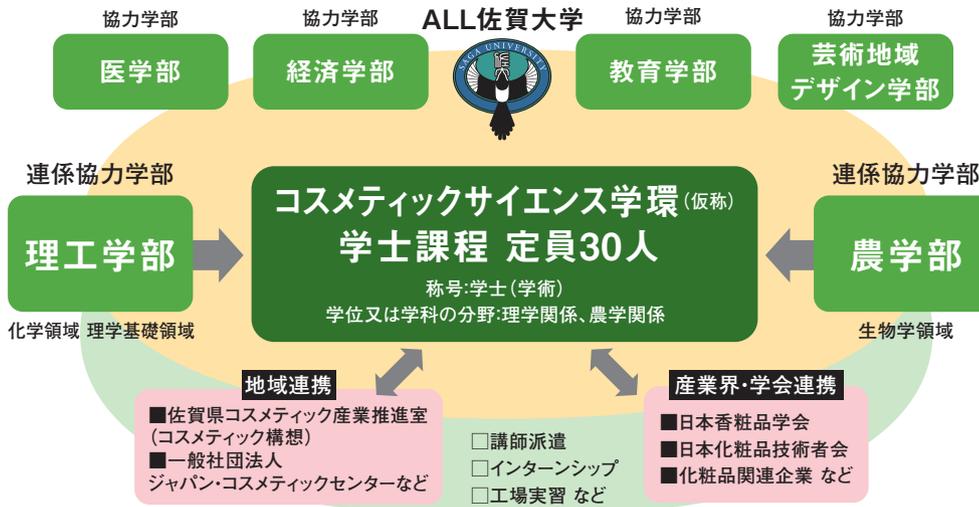
設置構想中の  
大学に聞く!

地方国立大の新設・改組のこれからは?

佐賀大学  
コスメティックサイエンス学環(仮称)

入定員	30名
設置年度	2026年
学位分野	理学関係・農学関係

キャンパス/佐賀県佐賀市、佐賀県西松浦郡有田町  
学生数(学部)/5774人  
学部/教育、芸術地域デザイン、経済、医、理工、農



\*入学定員等は現時点での予定であり、今後変更される場合があります。

地方創生の中核として  
県の産業振興に同期

佐賀大学は、コスメティックサイエンス分野における国公立大学初の教育組織「コスメティックサイエンス学環(仮称)」の2026年度設置に向けて準備を進めている。コスメティックサイエンスは、化粧品に含まれる化学物質の有効性や安全性を幅広い視点から研究する分野だ。理工学部と農学部を中心に全学部が連携する。

佐賀県は、化粧品産業を集積させ、産業振興を図る「コスメティック構想」を推進中で、自然由来の化粧品原料の供給地でもある。新学環構想には、こうした背景をふまえて、地域に必要とされる大学であり続けようという考えがある。「国立大学は地方創生の中核としての役割を期待されている。自らの教育の特徴を打ち出していく必要もある。佐賀県の歴史・文化を大切にしつつ、地域の産業界と連携して、本学独自の役割を果た

していきたい」(大島一里理事)。

加えて、「少子化が進む中、高校生に選ばれる学環でなければいけない」という兒玉浩明学長の考えもあった」と大島理事は話す。「高大連携の取り組みの中で、コスメに興味があると話す高校生が多く見られた。課題研究で化粧品をテーマに選ぶ農学部の学生も少なくない。他大学が構想中の学環は文系寄りのものが多く、本学の独自性が際立つ学問分野がよいと判断した」。コスメを学問として扱う大学は珍しいが、海外では一般的な学問分野だ。さらに、化粧品関連企業は年々、増加し続け、専門人材の需要が高まっていることも後押しになったと言う。

ビジョンを立脚点に  
教員の理解と協力を得る

同大学が学環新設をめざす出発点になったのは、2020年に掲げた「佐賀大学のこれからのビジョン2030」だ。このビジョンにある「時代のニーズに対応した分野横断型の学位プログラムの構築」を実現すべく、学長のリーダーシップの下、10年後、20

年後の佐賀大学の姿について執行部が議論。その後、設置準備委員会を発足させた。同委員会では、

社会の要請や受験生のニーズの分析を基に、新しい学位プログラムのあり方が議論された。当初はいくつかの案が出され、検討に時間を要したが、コスメをテーマに定めた後は一気に計画が進展。2024年11月に設置準備室を設け、具体的な準備を進めている。

コスメ産業を活性化させる人材には、多様な学問領域の知識が必須だ。そこで、同大学が有する教育リソースを生かし、分野横断型の学びを実現できる学部等連係課程の「学環」とした。複数学部の連携には、教員の理解と協力が欠かせない。目新しい学問分野でもあるため、当初は消極的な意見もあったという。「教員の理解が得られたのは、新たな教育プログラムの構築がビジョンに示されていたことが大きい。また、普段から執行部と各学部長は活発に意見交換しているが、その中で学環新設についての趣旨を伝えたほか、学部ごとの説明会も行った」(大島理事)。

昨年、開催した同学環を紹介するイベント「未来発見オープンデイズ」には、首都圏からの参加者も含め、100人を超える高校生やその保護者が来場。北海道や沖縄からもオンラインで視聴する参加者がいるなど、注目を集めている。

\* <https://sy.pref.saga.lg.jp/sagan-beauty/>